

特集にあたって

猿渡 康文 (筑波大学)

日本オペレーションズ・リサーチ学会創立 60 周年記念号をお届けします。

1957 年 6 月に産声を上げた本学会は、周年ごと、記念のイベントを企画・実施しています。60 周年を迎える本年 (2017 年)、記念イベントの目玉の一つとして、学会創立以来初となる沖縄での研究発表会を 3 月に開催しました。普段の倍ほどの厚みの予稿集はかなり衝撃的でした。立ち見が出る発表会場や、エイサー、泡盛の女王などが登場した懇親会など、長く記憶に残る大会となったものと思います。このほか、いくつかの記念事業が計画されています。お楽しみに！

さて、日本人にとって、齢 60 (数え年で 61) といえば、還暦です。生まれた年の干支に還るという意味の還暦は、長寿が一般的となった現代社会においては、第二の人生の出発点に位置づけられることが多いように思います。

- (1)学会のこれまでの歩みを振り返り、
- (2)学会の今日を俯瞰し、
- (3)学会の未来を展望する。

これらをまとめることは、学会が第二の人生を踏み出す契機となる。このように考え、本号では、

■特集 1 日本 OR 学会の系譜

■特集 2 今日の日本 OR 学会

■特集 3 これからの日本 OR 学会に向けて
の三つの特集を組むことにしました。

各特集について簡単に触れておきます。

■特集 1 日本 OR 学会の系譜

ここでは、学会の歩みを振り返ることを目的に、学会を学術面で支えてきた大学 (研究室) の変遷をまとめてみました。会員名簿を手がかりに、編集委員でもある小林隆史先生 (立正大学) と鶴飼孝盛先生 (慶應義塾大学) に、整理していただきました。大変興味深い結果が得られています。

■特集 2 今日の日本 OR 学会

OR の学術・実務的な広がりや周辺領域などを俯瞰

的に眺める。機関誌では、そのような特集が組まれていることが多いように思います。機関誌の歴代編集長の「目」を通して、(研究発表会などを含む) 今日の学会全体での活動や編集委員長であったときの機関誌に対する取り組み、特徴などについて、熱く語っていただきました。山下英明先生 (首都大学東京) は 2007~2008 年度、牧本直樹先生 (筑波大学) は 2009~2010 年度、松井知己先生 (東京工業大学) は 2011~2012 年度、池上敦子先生 (成蹊大学) は 2013~2014 年度の編集委員長です。さまざまな場面で、極めて積極的な情報発信を続けていらっしゃることはご存知のとおりです。現編集委員長の猿渡 (筑波大学) も書かせていただきました。

■特集 3 これからの日本 OR 学会に向けて

最後の特集は、日本 OR 学会の将来に向けての展望や期待を、歴代会長ならびに関連学会の会長に執筆いただきました。ご存知のとおり、伏見正則先生は 2008~2009 年度、数土丈夫先生は 2010~2011 年度、腰塚武志先生は 2012~2013 年度、大宮英明先生は 2014~2015 年度、大山達雄先生は現役の会長です。なお、数土先生に関しては、インタビューをもとに、いただいたメッセージを猿渡がまとめるという形になっています。

また、FMES (経営工学関連学会協議会) 関連を中心に、公益社団法人日本経営工学会会長河野宏和先生 (慶應義塾大学)、一般社団法人日本品質管理学会会長椿広計先生 ((独) 統計センター)、日本信頼性学会会長金川信康先生 (株式会社日立製作所)、研究・イノベーション学会会長宮崎久美子先生 (東京工業大学)、一般社団法人経営情報学会会長木嶋恭一先生 (大東文化大学) の先生方から貴重なご意見をいただきました。この場を借りて、御礼申し上げます。

さて、還暦といえば「真っ赤なちゃんちゃんこ」ですよ。機関紙にちゃんちゃんこを着せてみました。皆さんにはどのように感じられましたか。